

サポート通信

VOL. 24



特別支援教育センター校からの情報発信ネットワーク

発行者 広島市立広島特別支援学校地域支援部 広島市南区出島四丁目1番1号 TEL 代表 (082)250-7101

ATを活用して障害のある児童生徒の学びを支えよう

アシスティブ テクノロジー

A T (Assistive Technology) とは、「障害による物理的な操作上の不利や、障壁（バリア）を、機器を工夫することによって支援しようとする考え方、支援技術」のことです。障害のために実現できなかったことをできるように支援すること、そのための支援技術を指しています。

例えば、自力歩行の困難な方が、移動するために電動車椅子という機器を使うことは、A Tを活用していると言えます。言葉でのコミュニケーションが難しい子どもが、コミュニケーションのために押すと言葉を発してくれるスイッチを使うことも、A Tの活用です。先生方の身近にいる子どもたちは、どのようなA Tを活用していますか？

今号では、2、3面を広く使い、サポートセンターにあるA T機器を紹介します。使うことで学習に参加しやすくなる子どもがいます。「サポートセンターA Tライブラリー」を是非御覧ください。

コグトレ認知作業トレーニングの実践から

今年度連続してコグトレに関する記事を掲載してまいりました。本年度最終号では認知作業トレーニングの実践例を御紹介します。発達障害や知的障害のある子どもたちの中には身体的不器用さを併せもつ子どもがいます。「複数の動作を一つにまとめる運動能力（協調運動）が障害されているので粗大運動や巧緻動作に困難をきたす。」と開発者の宮口英樹先生（広島大学大学院教授）は説明しています。運動能力と認知機能の観点から開発されたコグトレ認知作業トレーニングは、不器用さを改善し、身体をうまく使う力を付け、日常生活の質的な向上を目指しています。トレーニングは教本（写真上）と付属の解説DVDを使い簡単に始めることができます。写真下は本校高等部の生徒がこのトレーニングに取り組んでいる様子です。生徒自身が新聞紙で「コグトレ棒」を作り、1人での簡単な筋力トレーニングや2人1組あるいはグループでコグトレ棒を使っの運動に取り組んでいます。「棒遊び」の要素が含まれ、生徒は棒を手にとると生き生きとしています。「自分の体を知る」ためのトレーニングから始めて、「物と自分の体との関係を捉える」、「人の体と自分の体の関係を捉える」といった複雑なレベルまで段階的にプログラムが組まれています。今後の成果が楽しみです。



サポートセンター ATライブラリー

アシティブ テクノロジー AT(Assistive Technology: 支援技術)を紹介します

障害や困難のある子どもの能力をATで補い、スタートラインをそろえ、公平性を確保しよう！

今回はサポートセンターにあるAT機器についてご紹介します。サポートセンターでは、少しずつAT機器をそろえています。障害や困難のある子どもたちの能力を最大限引き出すために、ATは有効です。『学校の中のハイブリットキッズたち』の中で東京大学の中邑賢龍氏は、「障害のある子どもたちが学習、コミュニケーション、移動能力を補償されないままに学校での活動に参加する場合、必要以上に努力を求められたり、場合によっては他者に依存せざるをえなくなることがある。」と述べています。ATの活用でより主体的に活動に参加できることが増えます。

現在貸し出しは行っておりませんが、お試しいただくことができます。下記FAX、もしくはe-mailでお問い合わせください。

ノイズキャンセリング ヘッドフォン	補聴システム	情報保障機器・コミュニケーション支援アプリ インターフェイス	
			
製品名：①SONY ノイズ キャンセリングヘッドホン ②BOSE QUIETCOMFOT35 II	製品名：SONY ワイヤレスマイクロホン ECM-AW4	製品名：アプリ (UD トーク) ワイヤレスマイク、iPad (iPhone) iRig2 (インターフェース)、プラグアダプター	
にぎやかな場所が苦手な人に騒音を低減してくれるアイテムがあります。ノイズキャンセリング機能で不要なノイズを抑制。レベルを調整して周囲の音も聞くことが可能。	周囲の音が気になって聞きたい声が聞こえない場合に、相手の声を耳に届ける方法があります。2台がそれぞれ送受信機の役割を果たします。1台を先生が、もう1台を子どもが受信機として持ちます。先生の声がBluetoothで子ども側に送られます。子どもが使いやすいヘッドフォンやイヤフォンとつながることが可能	聞こえにくい課題のある子どもに、話者の伝えたい内容を文字にすることが可能です。「UD トーク」というコミュニケーション支援・会話の見える化アプリを使います。iRig2というインターフェースを使うことで、より正確に音声入力することができます。また、ワイヤレスマイクで離れた話者の声が手元のiPadに文字として届きます。 	
読み書き		視線入力装置	
			
製品名：EPSON PX-S06B	製品名：scan snap lx500	製品名：VOCA PEN	製品名：Tobii PC Eye Mini
iPad などに入力したデータを提出する際、いつでもどこでも印刷が可能です。コンパクトで軽量。内蔵バッテリー搭載。	大量の紙媒体を高速でスキャンし、データ化できます。ワークなどデータ化したものをiPadなどに入れて入力したり、拡大したりして取り組むことができます。文字認識機能を使用し読み上げも可能に。	シールに録音し、シールの部分をペンでタッチすると再生することができます。自由に録音・再生できる夢のおしゃべりペンです。	PCに取り付け、視線入力により意思伝達をすることができます。PCに読み上げさせて会話したり、視線でのPC操作が可能です。読みのアセスメントに使うことも可能。

小学校 教科書情報

教科書における配慮が充実 しています

各教科書会社の情報を一覧にしました！

令和2年4月より、小学校の教科書が新しくなります。それに伴い、「学習者用デジタル教科書」※1を個人ユーザーに販売できるようにしている会社があります。また、「ルビ付き教科書」のデータ※2を指導書に入れている会社も増えました。ICTの活用が進んだ背景と、合理的配慮の理解も進んでいることが感じられます。

障害や困難のある子ども一人一人の学びを支えるために、現時点で分かっている情報について、先生方と共有したいと思います。

ルビ付き教科書とデジタル教科書について(令和2年度 広島市公立小学校)

小学校 教科	教科書 会社	ルビ付き教科書の データ	学習者用デジタル教科書
国語	光村図書	指導書の中にある (総ルビ)	1ライセンスから購入可能。保護者が希望する場合は、学校を通して広島教販へ注文を。
道徳		ない	
算数 社会 英語	東京書籍	指導書の中にある (総ルビ分かち書き)	1ライセンスからの購入は検討中。特別支援学級での使用や保護者から希望がある場合は、学校から広島教販へ問い合わせを。
理科 生活科	教育出版	ない	
家庭科	開隆堂	ない (指導書に指導者用 デジタル教科書あり、 総ルビ表示は可能)	
図画工作	日本文教出版	ない(文字が少なく、 写真が多いため)	
地図帳	帝国書院	もともとルビがついて いる	
わたしたちの 広島 3・4年	中国書店	方法を検討中	なし

※1 学習者用デジタル教科書 iPadやパソコンに入れて使う。読み上げやルビ付き機能がある。
※2 ルビ付き教科書 教科書にルビが付いたPDFデータ。プリントアウトして使える。

サポートセンターのAT機器についてのお問合せ先
FAX: 082-256-2310 e-mail: kitamura093@e.city.hiroshima.jp

書評1

「子どもの理解からはじめる感覚統合遊び」 加藤寿宏 監修

クリエイティブかものがわ 定価 1,800円（税別）

「読み書きが苦手な子に、読み書きの練習を繰り返し行う」方法は適切でしょうか。感覚統合理論を作ったエアーズ博士は疑問をもち、読み書きの基盤には何があるのか、どのように発達するのかを明らかにしました。「読み書き（教科学習）」の問題はピラミッドの上の方の問題であり、土台に位置する感覚・運動面へのアプローチこそ重要であると、ピラミッドの構造について解説されています。ある活動をクリアできたら少し難易度を上げ、クリアできなければ少し難易度を下げることによって学習効果が上がる、繰り返しだけではクリアできないとあります。

子どもの気になる行動から、感覚統合のトラブルを10タイプに分け、作業療法士の視点から支援の方向性を解説しています。最大の特徴は、本来個別性を重視する作業療法士が、保育者とコラボして「集団性」・「公平性」という視点で考えた点です。小学校でも活用できそうな面白い遊びや取組がたくさん紹介されています。



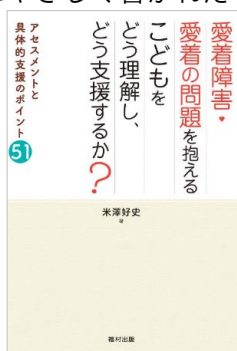
書評2

子ども虐待、愛着について考える本

「こども虐待という第四の発達障害」学研ヒューマンケアブックス 定価 1,700円（税別）他3冊

臨床医である杉山登志郎先生は、多くの重篤な被虐待児の治療にかかわる中で、虐待が原因で脳の発達にも障害が生じ、そのために例えば自閉症児と極めて似た症状や問題行動に苦しむ子どもがいるという精神医学的知見に達しました。子どもを守る立場である私たち学校現場の教員にも、子ども虐待について知ってほしいという思いで書かれている本です。

最近の研究で、重篤な虐待だけでなく何気ないかかわりの中でもマルトリートメント（不適切な療育）や愛着の問題が起こること、そして、周囲の人の適切なかかわりで、傷付いた脳が癒されることや、愛着の修復や形成が可能であることが分かってきています。マルトリートメントをしないための方法や杉山先生との対談が掲載された友田明美先生の「親の脳を癒せば子どもの脳は変わる」（本体800円+税）、保護者向けにやさしく書かれた「マンガですっきりわかる脳を傷つけない子育て」（本体1300円+税）や、愛着障害の



（本体1300円+税）や、愛着障害のアセスメントや実際の支援に詳しく書かれている、米澤好史先生の「愛着障害・愛着の問題を抱える子どもをどう理解し、どう支援するか？アセスメントと具体的支援のポイント51」（本体1800円+税）には、学校現場で私たちが取り組めるヒントがたくさん詰まっています。